

令和7年3月27日
武雄市企画政策課

第14回武雄市まち・ひと・しごと創生推進懇話会の開催結果について

第3期まち・ひと・しごと創生総合戦略(計画期間:令和7~11年度)の素案に対する意見を聴取するため、第14回武雄市まち・ひと・しごと創生推進懇話会を開催しましたので、下記のとおり結果をお知らせします。

記

- (1)開催方法　　書面開催
- (2)開催期間　　令和6年11月26日～令和6年12月13日
- (3)協議内容　　第3期武雄市まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)(別紙1)について
- (4)意見および意見に対する回答　別紙2のとおり

以上

もっと輝く☆スター戦略☆

(素案)

第3期武雄市まち・ひと・しごと 創生総合戦略

2025(令和7)年度～2029(令和11)年度

2025(令和7)年●月

武 雄 市

目 次

I 第2期総合戦略の取り組みおよび現状認識	3
II 第3期総合戦略の基本的な考え方	3
1. 位置づけ	3
2. 基本的視点	3
3. 政策の柱および基幹事業	4
4. 基本目標及び指標	6
5. 検証・改善	8
III 基本目標と施策	
基本目標① 守る～安心して暮らせるまち～	9
具体的施策(1) 災害に強いまちづくり(重点プロジェクト)	
具体的施策(2) 暮らしやすい住環境の整備	
具体的施策(3) 心身の健康を育む支援	
具体的施策(4) 高齢者・障がい者の充実した暮らしの支援	
基本目標② 稼ぐ～働きがいのあるまち～	12
具体的施策(1) 稼ぐ地場産業の基盤づくり	
具体的施策(2) 強い農林業づくりの支援	
具体的施策(3) 新たな活躍の場づくり(重点プロジェクト)	
基本目標③ 育む～成長を支えるまち～	14
具体的施策(1) 安心できる子育て環境の整備	
具体的施策(2) 誰一人取り残さない教育の推進	
具体的施策(3) 夢を持って成長できる学びの場づくり(重点プロジェクト)	
具体的施策(4) 文化・スポーツを身近に感じる環境づくり(重点プロジェクト)	
基本目標④ 彩る～交流しにぎわうまち～	17
具体的施策(1) 西九州のハブ都市の推進(重点プロジェクト)	
具体的施策(2) 効果的な情報の発信	
具体的施策(3) 多様性を認め合う風土づくり(重点プロジェクト)	

基本目標⑤ つなぐ～未来へ続くまち～ 19

具体的施策(1) 地域の特色を活かしたまちづくり(重点プロジェクト)

具体的施策(2) 持続可能な公共交通の整備

具体的施策(3) 豊かな自然環境の維持と活用

具体的施策(4) 効率的な行政の運営

I 第2期総合戦略の取り組みおよび現状認識

第2期武雄市まち・ひと・しごと創生総合戦略(以下「第2期総合戦略」という。)は、まち・ひと・しごと創生法(平成26年法律第136号)第10条に基づき、国や県の総合戦略を勘案した上で、「武雄市人口ビジョン」を踏まえ、武雄で市民一人一人が幸せに暮らすことを重視し「もっと輝く☆スター戦略☆」と称して策定した。

第2期総合戦略は、「仕事を創出し、所得を上げる」「最高の子育て・教育環境をつくる」「生きがいと健康を実感できるまちをつくる」「人と人との交流が生まれ、心がつながるまちをつくる」「災害に強く、安心して心豊かに暮らす環境をつくる」の5つを基本目標に掲げ、その指標を2024年度人口48,000人の維持、市民所得10%アップとして取り組みを進めてきた。

武雄市まち・ひと・しごと創生推進懇話会において毎年検証を行い、第2期の5年間で、それぞれの基本目標に係る取り組みを進めてきた結果、2023年度は、5年ぶりに社会増を達成し、人口は、2024年10月末現在46,997人と目標の48,000人を下回ってはいるものの、国立社会保障・人口問題研究所による2024年推計45,320人と比較すると1,600人程度上回っており、政策の成果が得られた。市民所得においても、基準値である243万2千円から267万6千円と約10%アップし、目標を達成している。

武雄市人口ビジョンの示す本市の現状は、若年人口、生産年齢人口が1985(昭和60)年の46,727人から2020(令和2)年の32,764人と減少が進んでいる一方、老人人口は、1985(昭和60)年の7,592人から2020(令和2)年の15,150人と増え続けており、現状では少子高齢化と人口減少がゆるやかに進行している。今後、老人人口が減少に転じる2025(令和7)年以降は、本格的な人口減少時代を迎える見込みである。高校卒業後の転出超過に対する、大学卒業後の就職等による転入超過は5分の1程度に留まり、生産年齢層の人口流出が深刻化している。また、在留外国人口は新型コロナウイルスの影響で一時減少したものの、2015(平成27)年の151人から、2024(令和6)年の331人と、増加が進んでいる。

II 第3期総合戦略の基本的な考え方

1 位置付け

まち・ひと・しごと創生法(平成26年法律第136号)第10条に基づき、「武雄市人口ビジョン」を踏まえ、本市の「まち・ひと・しごとの創生」に向けた目標、施策の基本的方向、具体的な施策を取りまとめた基本的な計画として策定するものである。

2 基本的視点

少子高齢化及び人口減少が、経済へ与える影響は大きく、地域社会の様々な基盤の維持を困難にしていく。そのため、少子高齢化及び人口減少に歯止めをかける取り組みの強化が必要であるとともに、今後ある程度の少子高齢化及び人口減少は避けられないことを前提に、効率的かつ効果的に持続可能な地域社会の構築のため、人口、経済、地域社会の課題解決及び地域活性化に対して一体的に取り組むことが重要である。

第3期総合戦略の策定にあたっては、これまでの取り組みの継承・発展に加え、国のデジタル田園都市国家構想と連動したデジタル活用を推進するとともに、以後の視点を重視することで、地域の課題解決や魅力向上の取り組みを深化・加速化する。

<重視する視点>

(1)多文化共生

外国人居住者や観光客は増加傾向にあるため、異なる文化や価値観を互いに理解し、尊重し合うことが求められている。外国人との相互理解を深めるための交流の機会の創出や、外国人が暮らしやすい、過ごしやすい環境の整備を進める。

(2)女性・若者目線

人口減少・少子化が進む中、地域を活性化するためには、女性や若者から選ばれる魅力的なまちづくりが求められている。性別にかかわらず誰もが活躍できるまちを実現するため、仕事と子育ての両立支援の強化や、固定的な性別役割分担意識の解消を図る。さらに、未来を担う若者がその才能や行動力を最大限に発揮できるよう、教育やキャリア支援を充実させる。

(3)市民総活躍

労働力不足や地域の担い手不足に対応するためには、高齢者や障がい者を含むすべての市民がその能力を活かし、活躍できる環境づくりが求められている。高齢者や障がい者等にとっての生きがいを創出し、同時に地域の労働力を確保するため、雇用のマッチングやスキルアップ支援に取り組み、人々が支え合い、発展する地域社会の実現を目指す。

(4)地域特性を活かしたまちづくり

少子高齢化が顕著な周辺部などにおいても、地域住民が安心して暮らし続けられるよう、地域の特性やニーズに応じた対策を講じ、きめ細かなまちづくりを進めていくことが求められている。地域の魅力を最大限に活かし、持続可能なまちづくりを進める。

(5)下位計画との連携強化

市の政策がより一貫性を持って進められるよう、最上位計画である武雄市まち・ひと・しごと創生総合戦略と下位計画との連携を強化する。各部署や地域の取り組みが総合戦略に基づき、効果的に実施されるよう調整を図り、全体的な政策の統一性と継続的な発展を目指す。

3 政策の柱及び基幹事業

第2期総合戦略は、5つの基本目標を掲げ、市民一人一人が幸せに暮らすまちづくりを推進してきた。地方創生は息の長い取り組みであるため、第2期で根付いた地方創生の意識や取り組みは2025(令和7)年度以降も継続していく。

2022(令和4)年の西九州新幹線開業により、武雄市は交通の要衝としての存在感が一層高まっている。このハブ機能を活かし、さらなるまちの発展を目指すためには、武雄温泉に代表される観光資源や、御船山・黒髪山・大楠などの豊かな自然資源、さらに蘭学や焼き物といった歴史文化・産業資源など、武雄にあるものの価値を再認識し、最大限に活用することが不可欠である。

武雄市の地域資源や人材と、ハブ機能によって集まる多様なモノとの融合が、起業や企業連携、教育や研究分野での新しい取り組み、さらには文化を活かした観光資源の創出など、さまざまな分野で新たな挑戦を生み出し、まちの原動力になるという考えのもと、あるものを活かして新たな挑戦を生み出す「西九州のハブ都市」の推進を政策の柱とする。

基幹事業としては、大雨災害から市民生活を守るため、流域自治体等と連携した総合的な治水対策を行う、「水と共に生きるまちをつくる治水対策事業」を進める。大雨による床上浸水ゼロを目指し、河川の整備や排水機能の強化などを推進する。

また、文化を活かしたまちづくりとにぎわいの創出を目指すため、「みんなで育てる文化のまちづくり事業」を進める。文化と食、文化とスポーツなど、文化を軸においた様々な分野との連携によるまちの魅力づくりや、市民誰もが文化芸術に触れ、文化活動を身近なものと捉えることができるような環境づくりを進めていく。

【政策の柱】

あるものを活かして新たな挑戦を生み出す

「西九州のハブ都市」の推進

【基幹事業】

○水と共に生きるまちをつくる治水対策事業

○みんなで育てる文化のまちづくり事業

4 基本目標及び指標

武雄市まち・ひと・しごと創生総合戦略では、「市民一人一人が幸せに暮らすこと」を最も重視している。この理念のもと、第1期から「スター戦略」として推進してきた。

「スター戦略」の名称は、幸せを象徴するとされる五角形(スター)に由来する。この五角形は市民一人一人の幸せを構成する要素を表しており、その要素に基づいて5つの基本目標を設定し、各種事業に取り組んできた。

第3期スター戦略では、市民一人一人の幸せを実現するための基本目標に①守る(安全・安心)、②稼ぐ(経済・なりわい)、③育む(子育て・教育)、④彩る(交流・つながり)、⑤つなぐ(持続可能なまち)の5つを掲げる。

基本目標①から④でまちの基盤を段階的に整え、基本目標⑤で将来にわたって魅力的かつ持続可能なまちのあり方を示している。

このまちづくりの実現の指標を、**2029(令和11)年度において人口46,000人維持、市民総所得10%アップ**とする。

基本目標① 守る～安心して暮らせるまち～

災害への備えや住環境の整備、福祉サービスの充実等を通じて、市民が安全安心に暮らせる生活基盤を構築する。

【関連する SDGs の目標】



基本目標② 稼ぐ～働きがいのあるまち～

地場産業の振興、人材育成の強化、多様な働き方の支援等を通じて、経済的な安定と発展を促進する。

【関連する SDGs の目標】



基本目標③ 育む～成長を支えるまち～

子育て支援の充実や教育環境の整備、文化・スポーツの振興等を通じて、子どもから大人まで、成長と自己実現を支える。

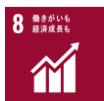
【関連する SDGs の目標】



基本目標④ 彩る～交流しにぎわうまち～

観光資源の活用や魅力的な情報発信、多文化共生の推進等を通じて、まちに交流とにぎわいを創出する。

【関連する SDGs の目標】



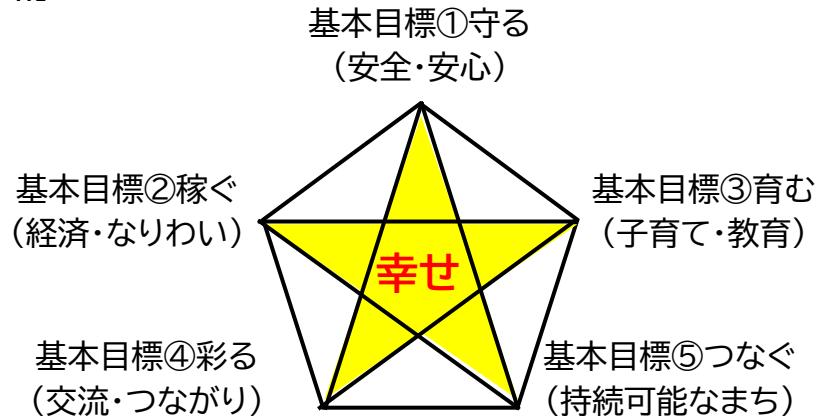
基本目標⑤ つなぐ～未来へ続くまち～

地域資源を最大限に活かしたまちづくりや公共交通の維持、自然環境の保全等を通じて、魅力ある誇れるまちを次世代へ受け継ぐ。

【関連する SDGs の目標】



【スター戦略】



2029(令和11)年度 人口	<u>46,000人</u>
(国立社会保障・人口問題研究所 推計 2029(令和11)年 <u>44,794人</u>)	
2029(令和11)年度 市民総所得	<u>10%アップ</u>
(令和5年度 市町村税課税状況等の調 ¹ 596 億 3198 万 9 千円)	

5 総合戦略の検証・改善

施策ごとに設定した「重要業績評価指標(KPI²)」を基に、PDCA サイクル³により施策の効果を検証し、必要な見直しを行っていくものとする。



¹ 市町村別内訳 第11表 総所得金額等。

² Key Performance Indicator の略。政策ごとの進捗状況を検証するために設定する指標。

³ Plan (計画) → Do (実行) → Check (評価) → Act (改善) の 4 段階を繰り返すことによって、業務を継続的に改善する。

III 基本目標および施策

基本目標の実現に向け、施策の基本的方向及び、実施する具体的な施策を次のとおり定めた。特に重点的に進める具体的施策には「重点プロジェクト」と記載した。また、基本目標における数値目標や、各施策における重要業績評価指標(KPI)を次のとおり設定する。

基本目標①

守る～安心して暮らせるまち～

◆基本的方向

大雨による災害から市民生活を守るために、関係機関と連携した総合的な治水対策を着実に進めるとともに、安心して避難できる環境整備など災害への備えを充実させ、水と共に生きるまちづくりを進め、未来に向けた安心感を高める。

快適で住みやすい良好な住環境を確保するため、地域資源を活かした景観づくりや、公園・道路等の整備など、計画的な都市整備を進める。

医療・介護・福祉分野の連携による、市民に寄り添った心身の健康づくり支援や、高齢者や障がい者の社会参加を促進するための支援を充実することで、どんな環境や境遇であっても、一人一人が自分らしく幸せに暮らせる福祉のまちづくりを着実に進める。

指標	基準	目標
武雄市は住みやすいと回答した人の割合(市民アンケート)	71.8%(R5年度)	80.0%(R11年度)

◆デジタル活用の方向性

デジタル技術による防災情報を充実させ、平時から利用することで防災力の向上につなげる。災害時における行政からの支援の迅速化を実現する。また、デジタル技術を積極的に活用して、福祉サービスの効率化を図り、市民生活の質向上を目指す。

<活用例>

- ・公開型 GIS の活用による防災意識の向上
- ・罹災証明交付等の被災者支援の迅速化
- ・高齢者のデジタル交流環境の整備と利用促進
- ・健康診断オンライン予約の導入

◆関連計画

- 武雄市デジタルトランスフォーメーション(DX)推進計画
- 武雄市新・創造的復興プラン
- 武雄市総合治水計画
- 武雄市ユニアーバーサルデザイン推進計画
- 武雄市空家等対策計画
- 武雄市下水道事業経営戦略
- 武雄市橋梁長寿命化修繕計画
- 武雄市景観計画
- 武雄市立地適正化計画
- 武雄市障がい者計画
- 武雄市障がい児福祉計画
- 武雄市健康増進計画
- 武雄市国民健康保険保健事業実施計画
- 武雄市地域防災計画
- 武雄市気候変動対応モデル都市構想
- 武雄市耐震改修促進計画
- 武雄市市営住宅ストック総合活用計画
- 武雄市生活排水処理基本計画
- 武雄市都市計画マスターplan
- 武雄市国土利用計画
- 武雄市地域福祉計画
- 武雄市障がい福祉計画
- 武雄市高齢者福祉計画
- 武雄市自殺対策基本計画
- 武雄市公共施設等総合管理計画

具体的施策(1) 災害に強いまちづくり(重点プロジェクト)

大雨による床上浸水ゼロを目指し、河川の整備や排水機能の強化など、関係機関と連携した治水対策を着実に進め、水と共に生きるまちづくりを推進する。

また、高齢者や障がい者など、配慮が必要な方々が安心して避難できる環境整備をはじめとする防災対策を強化するとともに、市民一人一人が自らの命を守る「自助」の意識を高めるための支援を行う。また、地域全体で助け合う「共助」の取り組みを促進し、地域全体の防災力向上を図る。

さらに、災害時に活動する消防団員が迅速かつ的確に活動できる体制を整える。

重要業績評価指標(KPI)	基準	目標
公有地を活用した 雨水貯留対策量	—	8,000 m ³ (R7~11年度累計)
地域防災リーダー数	66人(R6年度)	91人(R11年度)

具体的事業

- ・遊水公園整備事業
 - ・防災情報発信事業
 - ・避難行動要支援者事業
 - ・耐震診断、改修事業
 - ・急傾斜地等崩壊防止事業
 - ・農村地域防災減災事業
 - ・消防団運営事業
 - ・公園貯留整備事業
 - ・地域防災力向上事業
 - ・水に強い住まいづくり支援事業
 - ・災害復旧事業
 - ・防災備蓄事業
 - ・避難所等運営事業
- 等

具体的施策(2) 暮らしやすい住環境の整備

子どもから高齢者まで、さまざまな世代が快適で住みやすい住環境を確保するため、地域資源と調和した景観づくりや、公園・道路・下水道等の計画的な都市整備を進める。また、公共施設へのユニバーサルデザインの導入を進めることで、すべての人が利用しやすい空間づくりを目指す。

今後も空き家の増加が懸念されるため、空き家の活用や解体に対する支援を強化することで、安全で魅力的な環境を整備するとともに、地域のにぎわいづくりを進める。

重要業績評価指標(KPI)	基準	目標
汚水処理人口普及率	74.3%(R5年度)	83.7%(R11年度)
空き家・空き地バンク 成約数	13件(R5年度)	89件(R7~11年度累計)

具体的事業

- ・景観形成支援事業
 - ・公園活用促進事業
 - ・汚水施設整備事業
 - ・道路整備事業
 - ・空き家、空き地バンク事業
 - ・市営住宅管理事業
 - ・公園、キャンプ場維持管理事業
 - ・下水道整備事業
 - ・空き家、空き地対策事業
- 等

具体的施策(3) 心身の健康を育む支援

市民が心や身体の健康づくりに関心を持ち、自ら積極的に取り組めるよう、誰もが気軽に相談できる体制をつくるとともに、健康づくりに役立つ情報提供や、各種健康プログラムの実施を通じて市民の健康づくりを推進する。

生活に不安を抱える方に対して、迅速かつ的確な対応を行うため、各種支援機関との連携を強化する。相談内容に対し、包括的かつ継続的な支援を提供し、市民一人一人が安心して暮らせる環境づくりを目指す。

重要業績評価指標(KPI)	基準	目標
国保の特定健診受診率	48.3%(R5 年度)	60.0%(R11 年度)
国保の特定保健指導実施率	62.3%(R5 年度)	75.0%(R11 年度)
健診受診者の HbA1c ⁴ 6.5% 以上の者の割合	14.2%(R5 年度)	10.0%(R11 年度)

具体的事業

- ・国保の特定健診保健指導事業
- ・がん検診事業
- ・食生活改善推進協議会活動事業
- ・さわやかスポーツクラブ事業
- ・重層的支援体制整備事業
- ・生活困窮者自立支援事業
- ・物価高騰対策事業
- 等

具体的施策(4) 高齢者・障がい者の充実した暮らしの支援

高齢者が生きがいを持って生活できるよう、高齢者の技能・経験を活かせる活躍の場や若者との世代間交流の場の確保などを促進する。また、介護が必要になっても、住み慣れた地域で社会とつながり安心して暮らすことができるよう、医療や介護等の切れ目ないサービスが確保される地域包括ケアシステムの構築を支援する。

障がいの有無にかかわらず、すべての市民が人格と個性を尊重し合う共生社会の充実を図る。文化芸術活動やスポーツなどによる交流を通じて、障がい者が生きがいを実感できる環境を創出する。

重要業績評価指標(KPI)	基準	目標
要支援・要介護認定率	18.5%(R5 年度)	17.5%(R11 年度)
認知症サポーター登録数	8,532 人(R5 年度)	10,248 人(R11 年度)
障がい者就職説明・面接会を通じた就職件数	3 人(R5 年度)	15 人(R7~11 年度累計)

具体的事業

- ・高齢者サロン等お出かけ支援事業
- ・公民館講座事業
- ・高齢者大学助成事業
- ・シルバー人材センター支援事業
- ・老人クラブ活動等事業
- ・高齢者見守り事業
- ・認知症対策事業
- ・老人福祉センター運営事業
- ・地域包括ケアシステム拠点運営継続支援事業
- ・小地域ネットワーク活動推進事業
- ・介護予防教室事業
- ・重層的支援体制整備事業
- ・障がい者雇用促進事業
- ・障がい福祉サービス事業
- ・コミュニケーション支援事業
- ・重度心身障がい者医療費助成事業
- ・障がい者自立支援事業
- ・チャレンジスポーツ大会運営支援事業
- ・障がい者外出支援事業 等

⁴ HbA1c (ヘモグロビンエーワンシー)・・・糖化ヘモグロビンの存在割合。糖尿病の診断に用いる指標。

基本目標②

稼ぐ～働きがいのあるまち～

◆基本的方向

事業者が安定した経営を継続できるよう、多様な働き方の創出や、教育機関との連携による人材育成を通じて、地域で活躍する人材の確保を推進し、地域の人手不足解消を図る。

企業誘致やデジタル技術の活用による新たなビジネスモデルの創出、地域資源を活かした経済循環の促進を通じて、魅力的な就業機会の創出を図る。

指標	基準	目標
就職件数 ⁵	1,746 人(R5 年度)	2,000 人(R11 年度)

◆デジタル活用の方向性

観光や農業など、地場産業のデジタル活用による地域の魅力向上とともに、新たな事業の創出や起業を促進し、地域経済の活性化を図る。

<活用例>

- ・ドローンや IoT 等のデジタル技術の導入支援
- ・品質管理や販路拡大の支援
- ・データ分析による生産性向上やリスク管理支援
- ・地域通貨を活用した地域内経済循環の促進

◆関連計画

- 武雄市デジタルトランスフォーメーション(DX)推進計画
- 武雄市新・創造的復興プラン
- 武雄市障がい者計画
- 農業振興地域整備計画
- さが園芸農業振興産地計画
- 武雄市ユニバーサルデザイン推進計画
- 武雄市男女共同参画推進計画
- 認定創業支援等事業計画
- 武雄市鳥獣被害防止計画
- 武雄市地域計画

具体的施策(1) 稼ぐ地場産業の基盤づくり

人手不足、物価高騰やデジタル技術の急速な進展等、社会情勢の変化に対応し、事業者が直面する課題に対する支援を強化する。

また、商工団体等と連携し、地域資源を掛け合わせた新たな価値創造の取り組み、将来性のある起業・創業への支援、新たな事業展開を目指す事業者への支援に積極的に取り組み、地域に根ざした産業の振興に努める。

重要業績評価指標(KPI)	基準	目標
地域商業活性化事業を活用した新規出店数	2 件(R6 年度)	10 件(R7~11 年度累計)

具体的事業

- ・特産品開発、販路開拓支援事業
- ・商店街等空き店舗活用事業
- ・商店街魅力づくり促進事業
- ・創業支援事業
- ・商工団体支援事業
- ・中小企業融資事業
- 等

⁵ ハローワーク武雄管内（武雄市、大町町、江北町、白石町）の就職件数。

具体的施策(2) 強い農林業づくりの支援

農林業が今後も基幹産業として継続できるよう、新規就業者の確保や定着を支援する。

地域に根差した農畜産物の魅力を磨き上げ、ブランド化を推進するとともに、地産地消を推進し、安定的な収益確保を目指す。

農地の維持・集約、有害鳥獣被害防止対策の強化や森林保全のための支援を行うとともに、農業用施設の維持管理等の支援を行うなど、農業基盤を支えることで、生産活動の安定化と効率化を図る。

重要業績評価指標(KPI)	基準	目標
農業産出額	578千万円(R4年)	660千万円(R10年)
青年等就農計画数	3人(R5年度)	15人(R7~11年度累計)
有害鳥獣の農作物被害額	450万円(R5年度)	400万円(R10年度)

具体的な事業

- ・新規就農者支援事業
- ・中山間地域等直接支払交付金事業
- ・園芸団地整備事業
- ・畜産振興事業
- ・青年等就農計画数
- ・ジャンボタニシ駆除対策事業
- ・多面的機能支払交付金事業
- ・地産地消推進事業
- ・農産物ブランド化事業
- ・林業振興支援事業
- 等

具体的施策(3) 新たな活躍の場づくり(重点プロジェクト)

育児や介護中の方などが就業しやすい柔軟な働き方の創出や、高齢者の労働参加を支援することで、労働者の所得向上と雇用者の労働力確保を実現する。

工業団地を整備し、今後成長が見込まれる分野や市内産業の成長への寄与が期待できる分野をターゲットとした企業誘致を進めるとともに、地場産業の魅力向上を支援することで、若者が地元で安心して働く環境を実現する。

企業、大学、地域との連携によるキャリア形成やスキルアップの支援を行い、地域で活躍する人材の育成に努め、地域全体の労働力を底上げする。

重要業績評価指標(KPI)	基準	目標
企業誘致数	1件(R5年度)	5件(R7~11年度累計)
進出協定企業の正社員雇用者数	8人(R5年度)	40人(R7~11年度累計)
市民税の納税義務者数 ⁶	24,157人(R5年度)	24,757人(R11年度)

具体的な事業

- ・男女共同参画啓発事業
- ・就職相談会開催事業
- ・専門技能者育成事業
- ・障がい者雇用促進
- ・子育て世代の就活支援事業
- ・企業誘致事業
- ・学校誘致事業
- ・新工業団地整備事業
- 等

⁶ 市町村税課税状況等の調 市町村別内訳 第2表 均等割を納める者。

基本目標③

育む～成長を支えるまち～

◆基本的方向

家庭環境や子育てに関する悩みや困り事等に対し、関係団体が連携し、地域全体で子育てを自分事として何ができるのかを考え、安心して子育てができるよう支援する。

全国に先駆けて進めてきたICT教育をさらに深化するなど、全ての子どもたちが生まれ育った環境等に左右されることなく、平等に教育を受ける機会を保障する。

子どもから高齢者まで学びたい人がいつでも、誰でも学ぶことができる機会を創出し、地域で活躍する人材を育成する。

文化や、スポーツ活動を身近に感じる環境づくりを進め、誰もが心豊かに暮らせるまちをつくる。

指標	基準	目標
年少人口率	13.05%(R5年度)	13.30%(R11年度)

◆デジタル活用の方向性

デジタル技術を活用した学習機会を提供し、教育水準の向上を図る。

<活用例>

- ・AI技術の利用促進
- ・ネットワーク環境の維持、向上
- ・デジタルアーカイブ導入
- ・デジタル技術を活用した新たな教育環境の構築
- ・学校でのデジタルリテラシー教育の推進

◆関連計画

- 武雄市デジタルトランスフォーメーション(DX)推進計画
- 武雄市新・創造的復興プラン
- 武雄市の教育
- 武雄市子どもの未来応援計画
- 武雄市創造的復興プラン
- 武雄市教育ビジョン
- 武雄市教育大綱
- 武雄市子ども・子育て支援事業計画
- 武雄市男女共同参画推進計画
- 武雄市ユニバーサルデザイン推進計画

具体的施策(1) 安心できる子育て環境の整備

保育サービスの充実や、子育て総合支援センターを拠点とした子育て世代の交流の場の提供等により、地域全体で子どもを育てる環境づくりを推進する。

こども家庭支援員や保健師等が、子育てに関する情報提供や助言を行い、必要な支援サービスへつなぐことで、各家庭の悩みや不安の解消に努める。

家庭での学習や遊びが困難な子どもたちに対し、笑顔コーディネーターを中心として関係機関と連携を図りながら、居場所や体験活動を提供し、学習習慣の定着と意欲向上を図る。

重要業績評価指標(KPI)	基準	目標
出産後安心して育児ができる人の割合	87.6%(R5年度)	90%(R11年度)
子育て総合支援センター利用者数	8,742人(R5年度)	9,500人(R11年度)
放課後児童クラブを利用した保護者の満足度	97%(R5年度)	98%(R11年度)

具体的事業

- | | |
|------------------|------------------|
| ・妊娠等包括的相談支援事業 | ・子育て世代包括支援センター事業 |
| ・ファミリーサポートセンター事業 | ・保育人材確保事業 |
| ・保育所、認定こども園整備事業 | ・病児病後児保育事業 |
| ・子どもの発達支援事業 | ・ヤングケアラー支援体制強化事業 |
| ・子どもの貧困対策事業 | ・子どもの居場所づくり支援事業 |
| ・放課後児童クラブ整備事業 | ・男性の子育て推進事業 |
| ・多子世帯支援事業 | ・就学援助事業 |
| | 等 |

具体的施策(2) 誰一人取り残さない教育の推進

学習用端末などのデジタルを有効活用し、各児童生徒の学習状況に応じた学びを支援することで、学習意欲と学力の向上を図る。

特別支援学級や不登校の児童生徒など、一人一人に応じた多様な学びを支援することで、子どもたちの笑顔を育み、誰もが個別最適に学べる環境をつくる。

重要業績評価指標(KPI)	基準	目標
不登校児童生徒数のうち 学校内外の機関等において 相談・指導を受けた割合	小学校:97%(R11年度) 中学校:96%(R11年度)	小学校:97%(R11年度) 中学校:96%(R11年度)
学習意欲が高い子どもの割合	小学校:84.8%(R6 年度) 中学校:80.8%(R6 年度)	小学校:90%(R11 年度) 中学校:85%(R11 年度)

具体的事業

- | | |
|-------------|-----------------|
| ・教育 DX 推進事業 | ・小中学校の体験活動の充実事業 |
| ・ALT 活用事業 | ・適正就学支援事業 |
| ・特別支援教育推進事業 | ・不登校児童生徒支援事業 |
| ・地域学校協働活動事業 | 等 |

具体的施策(3)

夢を持って成長できる学びの場づくり(重点プロジェクト)

高校生や大学生のまちづくり参画事業など、若者が地域に参画し、多様な考え方につれて触れる機会を創出することで、地域の魅力や課題の認識を深め、主体的に考える力を伸ばす。また、将来の夢を見つけることにつなげ、地域で活躍する人材の育成を図る。

出前講座の実施や、学校誘致により進学の選択肢を増やすなど、年齢や境遇に関わらず、学びたい気持ちが尊重されるまちづくりを行う。

重要業績評価指標(KPI)	基準	目標
高校生のまちづくり参画事 業で高校生が関わった市民 等の人数(各班の平均人数)	110 人(R6 年度)	600 人(R7~11 年度累計)
出前講座受講者数	6,366 人(R5 年度)	7,010 人(R11 年度)

具体的事業

- | | |
|-----------------|------------------|
| ・学校誘致事業 | ・高校生のまちづくり参画事業 |
| ・大学、短期大学等との連携事業 | ・高齢者大学活動支援事業 |
| ・学習機会提供事業 | ・生涯学習まちづくり出前講座事業 |
| ・官民一体型学校事業 | 等 |

具体的施策(4) 文化・スポーツを身近に感じる環境づくり (重点プロジェクト)

文化のまちづくり構想の理念に基づき、市内小学校等を対象とした図書館・歴史資料館での企画展への見学ツアーや、まちじゅうアートプロジェクトを実施するなど、市民が気軽に文化芸術に触れ、楽しむ機会を創出する。

ニュースポーツイベントの実施や、誰もが利用しやすいスポーツ施設の整備等を通じて、年齢や障がいの有無を問わず生涯を通じ気軽にスポーツを楽しめる環境づくりを行う。

重要業績評価指標(KPI)	基準	目標
歴史資料館企画展への来場者数	28,159人 (H31～R5年度平均)	29,000人 (R7～11年度平均)
スポーツイベント等への参加人数	7,130人(R5年度)	8,100人(R11年度)
スポーツに関する指導者育成等のセミナー参加人数	—	250人(R11年度)

具体的事業

- ・文化のまちづくり構想具現化事業
- ・新文化交流施設エリア整備事業
- ・文化財保存活用事業
- ・歴史資料館企画展事業
- ・伝統芸能承継事業
- ・自主文化事業
- ・市史編さん事業
- ・体育施設運営維持管理事業
- ・市民のスポーツ参画事業
- ・スポーツコミュニケーション事業
- 等

基本目標④

彩る～交流しにぎわうまち～

◆基本的方向

西九州新幹線開業により、武雄市は西九州エリアの交通結節点として存在感が一層高まっている。この好機を活かし、西九州エリアの自治体と連携を深め、全国及び世界からの誘客を図る。

地域資源の磨き上げなど、今あるものを活かしながら、西九州のハブ都市としての優位性を効果的に活用し、情報発信の強化や多言語化・ユニバーサルデザイン化を図ることで、多様な人々が交流する仕組みを構築し、新しい価値を創造しやすい環境づくりを進める。

指標	基準	目標
観光客数	153万人(R5年)	200万人(R10年)

◆デジタル活用の方向性

地域社会全体のデジタル参画を推進し、利便性の向上と新たなビジネス機会の創出を支援する。

<活用例>

- ・デジタルアーカイブ導入
- ・自動運転を含む新しい交通システムの検証
- ・スーパーAPIの活用による効率的な情報発信
- ・公開型 GIS の導入による行政情報利活用の促進

◆関連計画

○武雄市デジタルトランスフォーメーション(DX)推進計画

○武雄市新・創造的復興プラン

○武雄市男女共同参画推進計画

○武雄市ユニバーサルデザイン推進計画

○武雄市文化のまちづくり構想

具体的施策(1) 西九州のハブ都市の推進(重点プロジェクト)

武雄を拠点に、観光、文化、スポーツなど多様な分野で周辺自治体との連携を強化し、相互の魅力を高め合うことで、さらなる交流人口の増加を目指す。

二次交通⁷の整備や宿泊施設の拡充を支援し、国内外からの観光客やビジネス客が快適に滞在できる受け入れ環境を整備する。

重要業績評価指標(KPI)	基準	目標
武雄温泉駅の乗降客	1,953人/日(R5年度)	2,500人/日(R11年度)
外国人観光客数	14,000人(R5年)	18,300人(R10年)

具体的事業

- ・文化のまちづくり事業
- ・宿泊施設整備奨励事業
- ・広域観光連携事業
- ・外国人観光受入環境整備事業
- ・自発の観光誘客チャレンジ支援事業
- ・スポーツ大会、合宿等誘致事業
- ・観光周遊バス事業
- ・インバウンド誘客セールスプロモーション事業
- ・観光施設運営管理事業
- 等

⁷ 交通拠点（ハブ）となる駅等から目的地までの移動手段のことを指す。路線バス、タクシーやレンタカーなどが該当する。

具体的施策(2) 効果的な情報発信

地域の魅力や取り組みを多様なメディアを活用して発信するだけでなく、誰もが情報を受け取れるよう、手話通訳の活用など、アクセシビリティ⁸に配慮した情報発信を行う。

武雄市の住みやすさや充実したことども・子育て支援といった強みを、地方移住に関する若者や子育て世代を中心としたターゲット層に、SNS 等を活用して戦略的にプロモーションするなど、まちの魅力を効果的に発信することにより交流人口の増加や移住定住の促進を図る。

重要業績評価指標(KPI)	基準	目標
移住相談件数	1,284 件(R5 年度)	1,300 件(R11 年度)
公式ウェブサイト表示回数	1,691,510 回(R5 年度)	2,000,000 回(R11 年度)

具体的事業

- ・移住定住促進事業
- ・空き家、空き地バンク事業
- ・市政情報発信事業
- ・婚活支援事業
- 等

具体的施策(3) 多様性を認め合う風土づくり(重点プロジェクト)

将来にわたって活力ある地域社会を実現するためには、地域に集う多様な人々の活躍が不可欠であるため、多様な価値観を尊重する魅力的な地域づくりが求められる。年齢、性別、国籍、障がい等の有無に関わらず、誰もが自分の居場所と役割を持ち、つながり支え合う社会の実現に向けて、多言語化やユニバーサルデザイン化を推進する。

重要業績評価指標(KPI)	基準	目標
市の審議会・委員会等委員への女性の参画率	34.9%(R5 年度)	40.0%(R11年度)

具体的事業

- ・多文化共生のまちづくり事業
- ・男女共同参画推進事業
- ・人権啓発活動推進事業
- ・国際交流事業
- 等

⁸ 障がいのある方や高齢者など、あらゆるユーザーが情報にアクセスし、サービスを利用できること。

基本目標⑤

つなぐ～未来へ続くまち～

◆基本的方向

周辺部で顕著に進行している少子高齢化の状況においても、地域の絆やつながりをもち、支え合いながら、誰もがいつまでも安心して暮らせるよう、地域の実情に応じた各種団体等の支援や公共交通網の整備を行う。

地球温暖化の進行に対応し、ゼロカーボンの実現に向けた取り組みを推進するなど、将来にわたって自然と共生できる持続可能な地域づくりを目指す。

行政運営においては、地域資源を最大限に有効活用するなど効率的な運営に努め、未来の世代により良いまちをつないでいく。

指標	基準	目標
社会増減数	76人(R5年度)	100人(R7~11年度平均)

◆デジタル活用の方向性

公共交通や公共施設をより便利で快適に利用できるデジタルサービスを提供し、持続可能な公共サービスの実現と市民の利便性や、満足度向上を追求する。

<活用例>

- ・施設のオンライン予約、利用申込サービス導入
- ・自動運転を含む新しい交通システムの検証

◆関連計画

- 武雄市デジタルトランスフォーメーション(DX)推進計画
- 武雄市新・創造的復興プラン
- 武雄市ゼロカーボン実行計画
- 武雄市分別収集計画
- 武雄市空家等対策計画
- 武雄市行政改革プラン
- 武雄市国土利用計画
- 武雄市地域公共交通計画
- 武雄市一般廃棄物(ごみ)処理基本計画
- 武雄市生活排水処理基本計画
- 武雄市公共施設等総合管理計画
- 武雄市都市計画マスターplan
- 武雄市立地適正化計画

具体的施策(1) 地域の特色を活かしたまちづくり(重点プロジェクト)

地域住民が気軽に立ち寄り、集いの場として利用できる公民館づくりなどを通じて、住民同士の交流やつながりを深め、地域の活気を創出する。

各地域が持つ特色ある文化財、特産品や自然環境などの地域資源を最大限に活用することで、その地域ならではの魅力を引き出す。

また、人口減少等で継続が困難となる地域保全活動の負担軽減策など、どの地域に住んでいても、いつまでも快適に生活できるまちを実現する。

重要業績評価指標(KPI)	基準	目標
公民館利用者数	76,600人(R5年度)	88,000人(R11年度)
地域コミュニティ活性化事業補助金を活用した活動への参加者数	3,810人(R5年度)	4,380人(R11年度)

具体的事業

- ・地域主体のまちづくり事業
- ・地域コミュニティ活性化事業
- ・市民協働活動促進事業
- ・地域資源保全管理支援(除草支援等)事業
- ・CSO 活動助成事業
- ・生涯学習まちづくり出前講座
- ・市道防草対策事業
- 等

<地域別の今後の方向性>

人口減少を食い止め快適に暮らせる地域づくりを進めていくためには、地域ごとの特徴や課題に応じた取り組みを進めていくことが必要である。

ここでは、地域別の今後の方向性と関連事業を整理した。

なお、各地域における今後の方向性、関連事業については、主要なものについてのみ掲載している。

町名	今後の方向性	関連事業
武雄町	市街地の形成にあたっては、JR 武雄温泉駅を中心として、楼門、図書館・歴史資料館、白岩運動公園、武雄競輪場、および現在整備を進めている新文化交流施設エリア等をつなぐ回遊性を高めるための環境づくりを行う。	・新文化交流施設エリア整備事業 ・公共交通運行事業 ・公民館整備事業
橋町	・六角川流域全体で治水対策に取り組み、床上浸水ゼロを目指した水害に強いまちづくりを進める。 ・おつぼ山神籠石については、文化財の価値が高いため、保存を図るとともに、市民の憩いの場及び子ども達の学習の場とする目的として、史跡としての価値を高めるための整備を行うなど、歴史を活用したまちの活性化を進める。	・治水対策事業 ・文化財保存活用事業
朝日町	・六角川流域全体で治水対策に取り組み、床上浸水ゼロを目指した水害に強いまちづくりを進める。 ・こども園や小学校が所在する公民館周辺を拠点に、子ども達が安心して過ごせる居場所や、子育て世代の交流の場づくりなど、安心して子育てができるまちづくりを進める。	・治水対策事業 ・「楽しく子育て」教室事業
若木町	・八幡岳自然公園、眉山キャンプ場、川古の大楠公園など、地域資源や棚田を活かした自然農業体験を推進する。 ・新たな若木公民館は、誰もが利用しやすい地域コミュニティ拠点としての整備を進め、さらなる生涯学習の充実やまちづくり活動の推進を図る。	・公園、キャンプ場維持管理事業 ・観光周遊バス運行事業 ・指定棚田地域保全活動支援事業 ・公民館整備事業
武内町	・武内公民館でコミュニティカフェを運営し、色々な人が気軽に利用できるような環境づくりを進め、新たな人と人とのつながりや賑わいづくりを促進する。 ・やきものや竹古場キルンの森公園を活用した自然・文化・レクリエーションゾーンを形成する。	・コミュニティカフェ運営事業 ・観光周遊バス運行事業

東川登町	<ul style="list-style-type: none"> ・袴野地区に新工業団地を整備し、さらなる雇用の拡大に向け企業誘致を推進する。 ・交通空白地有償運送を行う地域団体への支援を行うことで、高齢者の社会参加および生活支援の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新工業団地整備事業 ・高齢者移動支援事業
西川登町	<ul style="list-style-type: none"> ・かんころの家を中心に、あらゆる世代が気軽に集まり、交流できる環境づくりに取り組み、地域のつながりを育む。 ・交通空白地有償運送を行う地域団体への支援を行うことで、高齢者の社会参加および生活支援の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケアシステム拠点運営支援事業 ・高齢者移動支援事業
山内町	<ul style="list-style-type: none"> ・黒髪山自然公園、乳待坊公園、山内中央公園など豊かな地域資源を効率的に利用しながら景観を保全し、自然環境が確保された土地利用の推進を図る。 ・高次地域拠点⁹であるJR三間坂駅周辺への生活サービス関連施設の立地誘導等により生活利便性を高めるほか、国道35号沿道では既存の集客施設を活かしながら、新たな集客施設の立地誘導を行うなど、活力のある地域づくりを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公園、キャンプ場維持管理事業 ・周遊観光バス運行事業
北方町	<ul style="list-style-type: none"> ・六角川流域全体で治水対策に取り組み、床上浸水ゼロを目指した水害に強いまちづくりを進める。 ・高次地域拠点⁹である北方公民館周辺と一体的なスポーツ・レクリエーション拠点を維持するとともに、本市の東の玄関口である武雄北方インターチェンジや国道34号の利便性を活かした活力のある地域づくりを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・治水対策事業 ・国道34号整備事業

具体的施策(2) 持続可能な公共交通の整備

地域の実情に応じた公共交通網を形成し、持続可能な移動手段を確保する。
公共交通の改善・維持に取り組む交通事業者を支援し、公共交通を利用しやすい環境整備を推進する。

重要業績評価指標(KPI)	基準	目標
循環バス及び コミュニティバス乗降者数	21,065人(R5年度)	25,000人(R11年度)

具体的事業

- | | |
|----------------|------------------|
| ・循環バス運行事業 | ・生活交通路線維持事業 |
| ・コミュニティバス等運行事業 | ・廃止路線代替バス運行事業 |
| ・地方バス路線運行事業 | ・自家用有償運送等事業
等 |

⁹ 生活サービス関連施設等が集積した交流・情報発信の中心となる拠点

具体的施策(3) 豊かな自然環境の維持と活用

深刻化する気候変動への対策は喫緊の課題である。「2050年ゼロカーボンシティ in たけお」を宣言しており、ゼロカーボンに向けた取組を推進する。

豊かな自然を守り後世に継承するとともに自然体験活動などの利活用を推進することで生活の質の向上につなげる。

重要業績評価指標(KPI)	基準	目標
キャンプ場利用者数	5,944人(R5年度)	7,900人(R11年度)
不法投棄の通報件数	16件(R5年度)	4件(R11年度)

具体的事業

- ・廃棄物処理、減量等事業
- ・ゼロカーボン推進事業
- ・資源リサイクル事業
- ・公園、キャンプ場活用事業
- ・わんぱくスクール、ジュニアリーダー育成事業
- 等

具体的施策(4) 効率的な行政の運営

歳入強化や歳出削減といった行財政改革に取組み、持続可能な自治体運営を目指す。

公共施設総量の適正化や施設の長寿命化を図るとともに、利用計画の無い資産の売却や貸付を行うなど、資産の有効活用を進める。

業務委託や民間との連携を積極的に推進し、民間の持つノウハウや活力を最大限に活かして、効率的かつ効果的な自治体運営に努める。

重要業績評価指標(KPI)	基準	目標
ふるさと納税寄附額	2.8億円(R5年度)	14億円(R11年度)

具体的事業

- ・市税賦課徴収事業
- ・公共施設等(アセット)総合管理事業
- ・競輪事業
- ・ふるさと納税推進事業
- ・行政手続きオンライン化事業
- 等

第14回武雄市まち・ひと・しごと創生懇話会(書面開催)議事録

※第3期武雄市まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)に対する意見

A.計画案に対する意見(案を修正したもの)	4
B.計画案に対する意見(案を修正しないもの)	5
C.計画案と同趣旨の意見	17
D.今後の計画の推進において参考とするもの	9
E.その他(感想や質問等)	2

No.	基本目標	具体的施策	意見	意見に対する回答	取扱区分
1	基本的な考え方	—	基本目標②稼ぐ～働きがいのあるまち～において、SDGS目標9「産業と技術革新の基盤をつくろう」も該当するのではないか。	ご意見のとおり、基本目標②稼ぐ～働きがいのあるまち～において、SDGS目標9「産業と技術革新の基盤をつくろう」の記載がなかったため、追加いたしました。	A
2	③育む ～成長を支えるまち～	3-3夢を持って成長できる学びの場づくり	KPI 「高校生のまちづくり参画事業で高校生が関わった市民等の人数」も大事だが、この事業に参加して、どれだけ自己成長を感じられているのか、若者的人材をどれだけ育めたのかをはかる指標(参加者アンケートなど)がふさわしいのではないか。	ご意見のとおり、若者的人材をどれだけ育めたのかをはかる指標が適切であると判断し、今後、参加者へアンケートを実施することとしました。KPIについては「高校生のまちづくり参画事業を通して自己成長を感じることができた高校生の割合」に変更しました。	A
3	⑤つなぐ ～未来へ続くまち～	5-1地域の特色を活かしたまちづくり	KPIの「地域コミュニティ活性化事業補助金を活用した活動への参加者数」は、一般の方が見て分かりやすいよう、補助金名ではなく、当該補助金がどのような活動に活用されているのかイメージできる表記にした方がよいと考える。	ご意見のとおり、分かりやすい表記にした方がよいと判断し、下記のとおり、地域コミュニティ活性化事業補助金についての注釈を追加しました。 ※通学合宿や世代間交流など、住民相互の連帯意識を醸成し、住みよく生きがいのある地域づくりにつながる自発的、自主的な事業を実施する団体及びグループに対し交付する補助金。 また、同様の観点から、基本目標②稼ぐ／具体的施策(1)稼ぐ地場産業の基盤づくりのKPIについても、下記の注釈を追加しました。 【KPI】地域商業活性化事業補助金を活用した新規出店数 【注釈】 地域商業活性化事業補助金… 商店街等の空き店舗や空き家を活用し新規事業を行う方へ補助金を交付する事業。	A
4	⑤つなぐ ～未来へ続くまち～	5-1地域の特色を活かしたまちづくり	武雄町:歴史と文化財を含めた「如蘭塾」は入れなくていいのか。大切な武雄の宝である。	ご意見のとおり、如蘭塾は武雄市の大切な文化財であることを踏まえ、下記の赤字部分を追記しました。 市街地の形成にあたっては、JR武雄温泉駅を中心として、楼門、図書館・歴史資料館、白岩運動公園、武雄競輪場、 如蘭塾 および現在整備を進めている新文化交流施設エリア等をつなぐ回遊性を高めるための環境づくりを行う。	A

※第3期武雄市まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)に対する意見

A.計画案に対する意見(案を修正したもの)	4
B.計画案に対する意見(案を修正しないもの)	5
C.計画案と同趣旨の意見	17
D.今後の計画の推進において参考とするもの	9
E.その他(感想や質問等)	2

No.	基本目標	具体的施策	意見	意見に対する回答	取扱区分
5	基本的な考え方	—	政策の柱:あるものを活かして新たな挑戦を生み出す「西九州のハブ都市」の推進 意図するところは分かるが、既存のもののみでやっていくと若干ネガティブな印象が拭えない。あるものを活かし、かけあわせて新たな挑戦を生み出す であれば一目で理解できるのではないか。	ご意見のとおり、「あるものを活かして新たな挑戦を生み出す」の部分だけであれば、既存のものしか活用しないという印象を与えてしまうかもしれません、「西九州のハブ都市の推進」に、ハブ機能を有効活用し、新しいものを呼び込むという意味を込めています。政策の柱の考え方も併せて記載しており、新しいものも受入れ、発展していくイメージが伝わるものと考えているため、案のとおりとさせていただきます。ご理解の程お願い申し上げます。	B
6	②稼ぐ ～働きがいのあるまち～	2-1稼ぐ地場産業の基盤づくり	KPI:地域商業活性化事業を活用した新規出店数の目標値が10件(R7～11年度累計)であるが、目標が低いのではないか?	ご意見のとおり、目標値については、武雄市の現状の店舗等の状況を踏まえると、低く感じるかもしれません、人口減少下でも、直近の採択件数(令和6年度:2件)を維持するものであり、目標としては適切であると判断し、案のとおりとさせていただきます。ご理解の程お願い申し上げます。	B
7	②稼ぐ ～働きがいのあるまち～	2-3新たな活躍の場づくり	KPI:進出協定企業の正社員雇用者数の目標値が40人(R7～11年度累計)であるが、目標値が低いのではないか?	ご意見のとおり、目標値については、武雄市的人口規模等を踏まえると、低く感じるかもしれません、人口減少下でも、直近の雇用者数(令和5年度:8人)を維持するものであり、目標としては適切であると判断し、案のとおりとさせていただきます。ご理解の程お願い申し上げます。	B
8	基本的な考え方	5-3豊かな自然環境の維持と活用	社会全体の第一の課題、目標はゼロカーボンであり、キャンプ場利用者数をKPIとするのは妥当なのか	ご意見のとおり、ゼロカーボンは重要な目標であり、直結する目標値が最適と考えておりますが、温室効果ガス排出量等は、実績の計測にかなりのタイムラグが生じるため、今回はKPIに設定していない状況です。 ゼロカーボンに直結するKPIではありませんが、ゼロカーボンの目的である自然環境保護につながる「不法投棄の通報件数」を挙げています。 キャンプ場利用者数については、自然に触れることで、自然の大切さを理解してもらうことにつながると考え、「自然環境の活用」の観点から設定したKPIであり、妥当と考えておりますので、ご理解の程お願い申し上げます。	B

※第3期武雄市まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)に対する意見

A.計画案に対する意見(案を修正したるもの)	4
B.計画案に対する意見(案を修正しないもの)	5
C.計画案と同趣旨の意見	17
D.今後の計画の推進において参考とするもの	9
E.その他(感想や質問等)	2

No.	基本目標	具体的施策	意見	意見に対する回答	取扱区分
9	⑤つなぐ ～未来へ続くまち～	5-3豊かな自然環境の維持と活用	KPI「不法投棄の通報件数」があるが、適當であるか疑問。また、具体的事業でインパクトのある事業が示せないか。	ご意見のとおり、最適なKPIとしては、温室効果ガス排出量等が考えられますが、計測にかなりのタイムラグが生じるため、今回はKPIに設定していない状況です。 不法投棄については、土壤汚染や水質汚染、生態系の破壊など、自然環境に大きな影響を与える恐れがあるため、監視カメラや看板の設置等で未然防止・拡大防止の対策を行っており、通報件数は、事業の効果を示すものとして適當であると判断しておりますので、ご理解の程お願い申し上げます。 また、今後ゼロカーボン推進事業の一環として、公共施設(避難所等)への太陽光発電設備の導入等を検討します。	B
10	基本的な考え方	—	デジタル活用の一方で、取り残される人が出ない様、丁寧すぎるくらいの周知や説明が必要。併せて、血の通ったリアルな取り組みも強化していく必要がある。課題解決にも魅力向上にも最終的には”人”。多くの人に色々な形でまちづくりに関わってもらえるような機会を提供してほしい。	ご意見いただきましたとおり、デジタル格差をなくす取り組みについては重要と考えており、本戦略のデジタル活用の方針性の活用例においても「高齢者のデジタル交流環境の整備と利用促進」を掲げているところです。 本戦略に基づき、今後も、市民への分かりやすい周知・説明や、高齢者等を対象としたスマホ講座を実施するなど、現状ニーズに応じた対策を講じていきます。 また、デジタル活用を目的とせず、対面での取り組み等も大切しながら、あらゆる方を取り残すことなく、まちづくりに関わってもらえるよう取り組んでいきます。	C
11	①守る ～安心して暮らせるまち～	1-1災害に強いまちづくり	自然災害(津波等)の危険が高い地域では、避難訓練が実施されている。水害、土砂崩れ等武雄市でも起こりうる災害に対しての避難訓練を実施した方が良いのではないかと考える。避難場所まで道順の確認、高齢者のみの世帯への手助け(声掛け)など。	ご意見いただきましたとおり、災害への備えは重要であると考え、本戦略においても「災害に強いまちづくり」を重点プロジェクトに位置付けています。 本戦略に基づき、今後も自主防災訓練実施団体への補助金の交付や、市の防災訓練と連携した避難訓練を実施を行うなど、引き続き、各地域の実情に即した水害、土砂崩れへの備えに取り組んでいきます。 また、支援が必要な方が安全に避難できるよう、訪問等を行いながら、行動要支援者個別計画の策定を進めています。	C

※第3期武雄市まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)に対する意見

A.計画案に対する意見(案を修正したるもの)	4
B.計画案に対する意見(案を修正しないもの)	5
C.計画案と同趣旨の意見	17
D.今後の計画の推進において参考とするもの	9
E.その他(感想や質問等)	2

No.	基本目標	具体的施策	意見	意見に対する回答	取扱区分
12	①守る ～安心して暮らせるまち～	1-3心身の健康を育む支援	佐賀県は全国でも医療費が高い傾向が続いている。引き続き、心身の健康を育む支援をお願いしたい。	ご意見いただきましたとおり、医療費を抑制するという観点からも、健康増進支援は重要と認識しており、本戦略の具体的施策「心身の健康を育む支援」「高齢者・障がい者の充実した暮らしの支援」に基づき、引き続き市民の健康づくりや高齢者の生きがいづくりを支援します。	C
13	②稼ぐ ～働きがいのあるまち～	2-1稼ぐ地場産業の基盤づくり	賃金は上がりましたが、適正な価格転嫁が遅れ企業収益を圧迫、物価高に賃上げが追い付いていないという厳しい現状となっている。中小企業融資事業など、引き続き対策をお願いしたい。	ご意見いただきましたとおり、社会情勢を踏まえた企業への支援は必要であると考えております。本戦略の具体的施策「稼ぐ地場産業の基盤づくり」に基づき、経済状況等を注視しながら、商工団体や金融機関等と連携を図り、中小企業融資制度等の施策により企業経営の支援に取り組んでいきます。	C
14	②稼ぐ ～働きがいのあるまち～	2-1稼ぐ地場産業の基盤づくり	特産品開発、創業支援も大事な要素だが、「いまあるものを活かす」の視点で、魅力の掘り起こしや再認知に力を入れられないだろうか。焼き物ひとつとっても、もっと武雄焼に触れる機会が欲しい。(常設展示、体験など)	ご意見いただきましたとおり、地域の魅力の掘り起こしは、まちの発展に欠かせないものであると考えております。本戦略においても、『あるものを活かして新たな挑戦を生み出す「西九州のハブ都市」の推進』を政策の柱に位置づけております。令和6年度から歴史文化ツーリズムに取り組んでおり、今後も本戦略に基づき、観光につながる歴史文化資源の掘り起こしに取り組んでいきます。また、焼物に関しては、飛龍窯で絵付け等の体験ができますので、より周知を図っていきたいと考えています。	C
15	②稼ぐ ～働きがいのあるまち～	2-1稼ぐ地場産業の基盤づくり	総人口、とりわけ若年人口・生産年齢人口が減少で推移する中、地場産業はもちろん誘致企業も労働力の確保が難しくなってきてている。劇的な人口の自然増はなかなか難しい中、社会増及び市外からの流入数の増加を図ることで労働力の確保を図ることが必要と考える。	ご意見いただきましたとおり、市外からの労働力確保が必要と認識しております。本戦略においても、『あるものを活かして新たな挑戦を生み出す「西九州のハブ都市」の推進』を政策の柱に位置づけております。本戦略に基づき、地場産業の魅力向上支援等(あるものを活かす)を行い、さらに交通の要衝としての強みを活かし、市外からの労働力確保を実現したいと考えています。	C

※第3期武雄市まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)に対する意見

A.計画案に対する意見(案を修正したもの)	4
B.計画案に対する意見(案を修正しないもの)	5
C.計画案と同趣旨の意見	17
D.今後の計画の推進において参考とするもの	9
E.その他(感想や質問等)	2

No.	基本目標	具体的施策	意見	意見に対する回答	取扱区分
16	②稼ぐ ～働きがいのあるまち～	2-3新たな活躍の場づくり	近年、最低賃金ベースでは、佐賀県は長崎県を上回っており、地場産業の育成、魅力向上、成長分野の企業誘致等が実現すれば、長崎(特に新幹線沿線地域)からの労働力確保も期待できるのではないか。	ご意見いただきましたとおり、市外から的人材の確保は重要と考えておあり、本戦略の重点プロジェクトである「新たな活躍の場づくり」においても、工業団地の整備および企業誘致を掲げています。令和8年度上旬に新工業団地が完成予定となつておあり、企業誘致を実現して雇用創出につなげたいと考えています。 また、長崎県内の専門学校に対し、誘致企業による学校説明会を実施しており、引き続き長崎エリアからの人材確保も念頭に各種施策に取り組みます。	C
17	③育む ～成長を支えるまち～	3-3夢を持って成長できる学びの場づくり	まちづくりに関わる若者に視点を向け、早い段階に担い手としての意識を持つてもらうことが重要と感じる。若い世代がやりたい事、取り組みみたい事に補助をする等(1~2万の消耗品費等)、イベントやアクションの後押しができないか。	ご意見いただきましたとおり、若い世代にまちづくりに関わってもらうことが大切であると考えておあり、本戦略の具体的施策「夢を持って成長できる学びの場づくり」に基づき、まずは若い世代との意見交換の場づくりに取り組んでいきたいと考えております。	C
18	③育む ～成長を支えるまち～	3-4文化・スポーツを身边に感じる環境づくり	佐賀県にはプロチーム(サッカー、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール)がある。(佐賀インドネシアドリームズという野球チームもある)また、福岡まで足を延ばせば野球観戦もできる。 スポーツを身边に感じる環境づくりのため、経済的な理由で観戦できない子供たちに対して、何かできないか。	ご意見いただきましたとおり、誰もがスポーツに触れられる環境が必要と考えておあり、本戦略においても具体的施策「文化・スポーツを身近に感じる環境づくり」を重点プロジェクトに位置付けております。 これまで、プロスポーツ選手やスポーツトレーナーを招き、本物を体験し学ぶことができる場の無料提供等(例: R7.2.16TAKEOキッズパーク)を行っており、今後もこどもを含めた市民が、スポーツを身边に感じる取り組みを進めていきたいと考えています。	C
19	③育む ～成長を支えるまち～	3-4文化・スポーツを身边に感じる環境づくり	文化を身边に感じる環境づくりについては、「リアル」な体験を増やせないか。企画展に限らず、こどもたちを含め市民が直接見たり聞いたり体験する機会をもっと増やして欲しい。	ご意見いただきましたとおり、誰もが文化に触れられる環境が必要と考えておあり、本戦略においても、本戦略においても具体的施策「文化・スポーツを身近に感じる環境づくり」を重点プロジェクトに位置付けております。 現在、まちなかで文化・芸術活動の披露やコンサート、武雄市図書館・こども図書館では、様々なワークショップや演奏会等を行っています。新たに整備を行う新文化交流施設においても、芸術鑑賞やワークショップなど文化を身边に感じていただけるような機会づくりに努めていきたいと考えています。	C

※第3期武雄市まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)に対する意見

A.計画案に対する意見(案を修正したもの)	4
B.計画案に対する意見(案を修正しないもの)	5
C.計画案と同趣旨の意見	17
D.今後の計画の推進において参考とするもの	9
E.その他(感想や質問等)	2

No.	基本目標	具体的施策	意見	意見に対する回答	取扱区分
20	④彩る ～交流しにぎわうまち～	4-1西九州のハブ都市の推進	佐賀市から武雄市につながる国道34号線は、江北から大町を抜けて武雄に至る道幅は狭く、時間もかかる。それゆえ、商圏も二分して相乗効果となることがないように見える。西九州への優位性を確保しつつ、佐賀市方面へ向けた道路事情も視野に入れ、将来に向けて東西に開かれた武雄市となってほしい。	ご意見いただきましたとおり、ハブ都市の機能を活かした集客をさらに進めるべきと考えておらず、本戦略においても具体的施策「西九州のハブ都市の推進」を重点プロジェクトに位置付けております。 引き続き、国と連携した武雄バイパスの整備等により、国道34号の交通混雑緩和、走行速度の向上を図り、佐賀市方面からの誘客の増加を目指します。	C
21	④彩る ～交流しにぎわうまち～	4-1西九州のハブ都市の推進	旅行者も市民も楽しめる温泉街の活性化。	ご意見いただきましたとおり、温泉街の活性化は重要な課題であると認識しております、本戦略においても、具体的施策「稼ぐ地場産業の基盤づくり」を掲げております。 これまで、空き店舗等を活用した出店への補助金交付等により、温泉街の賑わい創出に取り組んでいます。 また、佐賀大学との連携協定にもとづくアートライブ等も実施しており、引き続き、温泉街の活性化につながるような取り組みを進めてまいります。	C
22	④彩る ～交流しにぎわうまち～	4-1西九州のハブ都市の推進	インバウンドを念頭に、外国語の看板や案内板の充実は必須で、早めの環境整備が必要。特に玄関口である駅でもっと市内を巡ってもらえるような魅力的な案内ができないか。	ご意見いただきましたとおり、インバウンドを念頭において環境整備は必要であると考えております、本戦略においても具体的施策「西九州のハブ都市の推進」を重点プロジェクトに位置付けております。 これまで、新幹線開業に合わせた市内主要施設および駅の観光案内版の多言語化や、武雄旅書店、駅観光案内所に、多言語対応ができるスタッフや翻訳機器を配置し、外国人観光客等への対応の充実を図ってきたところです。 今後も、本戦略に基づき、観光案内所のスタッフの研修やマニュアルの整備、デジタルサイネージの活用等で、インバウンド対応に取り組みます。	C

※第3期武雄市まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)に対する意見

A.計画案に対する意見(案を修正したもの)	4
B.計画案に対する意見(案を修正しないもの)	5
C.計画案と同趣旨の意見	17
D.今後の計画の推進において参考とするもの	9
E.その他(感想や質問等)	2

No.	基本目標	具体的施策	意見	意見に対する回答	取扱区分
23	④彩る ～交流しにぎわうまち～	4-3多様なつながりで築く豊かな地域づくり	武雄市で暮らす外国人の方との交流の場(企画)があったらよい。	ご意見いただきましたとおり、外国人を含めた様々な方の交流・理解が必要と考えており、本戦略において新たに重視する視点として「多文化共生」、具体的施策に「多様なつながりで築く豊かな地域づくり」を掲げております。これまで、外国人の方との交流の場として、日本語教室や、市内団体との協働での交流イベントを実施してきたところですが、今後は本戦略に基づき、令和7年度にCIR(国際交流員)を配置するなど、さらに拡充したいと考えます。	C
24	④彩る ～交流しにぎわうまち～	4-3多様なつながりで築く豊かな地域づくり	外国人の方が暮らしやすい(困ったときに相談しやすい)環境整備をお願いしたい。	ご意見いただきましたとおり、外国人を含めた様々な方の交流・理解が必要と考えており、本戦略において新たに重視する視点として「多文化共生」、具体的施策に「多様なつながりで築く豊かな地域づくり」を掲げております。本戦略に基づき、令和7年度にCIR(国際交流員)を配置するなど、相談体制も充実させたいと考えています。	C
25	④彩る ～交流しにぎわうまち～	4-3多様なつながりで築く豊かな地域づくり	「やさしい日本語」について、受け入れる側の市民にもっと周知することは、初めて武雄を訪れた観光客や、高齢者にとってありがたいことではないか。	ご意見いただきましたとおり、武雄市に住む、訪れるあらゆる方が過ごしやすい環境づくりを進める必要があると考えているため、本戦略の具体的施策「多様なつながりで築く豊かな地域づくり」に基づき、「やさしい日本語」についての周知を進めるなど、観光客や高齢者を含めたあらゆる人にやさしいまちづくりを進めています。	C
26	⑤つなぐ ～未来へ続くまち～	5-1地域の特色を活かしたまちづくり	都市部では、隣にだれが住んでいるかわからないことが普通になっている。そうならないように、地域での交流やイベント等を通して人と人とのつながりを大切にするまちづくりをお願いしたい。	ご意見いただきましたとおり、いつまでも安心して暮らすためには、地域のつながりづくりが必要と考えており、本戦略の重点プロジェクトに「地域の特色を活かしたまちづくり」を掲げております。本戦略に基づき、地域住民が気軽に立ち寄り、集いの場として利用できる公民館づくりなどを通じて、住民同士の交流やつながりが広がるまちづくりに取り組んでいきます。	C
27	①守る ～安心して暮らせるまち～	1-1災害に強いまちづくり	防災アプリ「たけぼう」に、床上浸水ゼロを目指す過程でこれまで行ってきた取り組みなどが一覧で確認できるようなコンテンツを追加してはどうか。どの部分が解消されたのか、確認できれば安心につながる。	武雄市の治水に関する取り組みは、たけおポータル内の特設ページ「武雄の治水」で紹介していますが、ご意見のとおり、防災アプリ「たけぼう」からも、当該ページへ誘導できるよう、リンクを掲載します。	D

※第3期武雄市まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)に対する意見

A.計画案に対する意見(案を修正したもの)	4
B.計画案に対する意見(案を修正しないもの)	5
C.計画案と同趣旨の意見	17
D.今後の計画の推進において参考とするもの	9
E.その他(感想や質問等)	2

No.	基本目標	具体的施策	意見	意見に対する回答	取扱区分
28	②稼ぐ ～働きがいのあるまち～	2-1稼ぐ地場産業の基盤づくり	有田町に繋がる「道の駅 黒髪の里」においても、商品の見直しと経営強化を通じて働く場の創出につなげることができないか。	ご意見頂きました「道の駅 黒髪の里」については、一般社団法人黒髪の里によって運営され、地場特産品等の開発や販路拡大を通じ、そこで働く人々にとどまらず、生産者にも新たな仕事が創出され、地域の方々の生きがいづくりにもつながっています。 また、R6年4月に西九州大学・西九州大学短期大学部と包括連携協力に関する協定を締結しており、商品開発等の連携を行うなど、ご意見頂きました「さらなる働く場の創出」に向け、引き続き新たな取り組みを進めていきます。	D
29	③育む ～成長を支えるまち～	3-1安心できる子育て環境の整備	子育て総合支援センターが行う「育ちあい講座」では、園児と中高生のふれあいの場として機能しているし、「赤ちゃん登校日」は赤ちゃんと小中学生のふれあい、保護者同士の交流の場として貴重で、今後も定期的に継続して頂きたい。どうしても学校など限定されてしまう側面もあるため、市内全域でこのようなふれあいが広がると、より良い環境づくりにつながるのではないかと思う。	ご意見頂きました、子育て総合支援センターの事業「育ちあい講座」は現状通り、市内全中学3年生及び高校1年生と市内全園との交流の継続を予定しています。 また、「赤ちゃん登校日」については市内全校に事業の実施を周知し、希望校との調整を図りながら、地域の親子や児童生徒にとってのより良い環境づくりにつなげていきます。	D
30	③育む ～成長を支えるまち～	3-4文化・スポーツを身边に感じる環境づくり	新文化施設関連の事業費が膨らむため、整備計画を見直すということだが、市民が望んでいた文化会館は、誰もが集い、誰もが学び合い、誰もが楽しめる場所であるという原点にかえって考えることが必要ではないか。	ご意見頂きました、文化施設関連事業は、大ホールについては、整備方針を見直すことになりますが、新たに整備する大ホール以外の新文化交流施設は計画どおり整備を行っています。 新文化交流施設は、市民の発表の場など様々な用途に利用できる多目的ホールや、美術・陶芸など創作活動ができる創作室、その他調理室やフリースペース等、文化・アートを楽しみながら交流が生まれ、市民の居場所となるような施設を目指しています。	D
31	④彩る ～交流しにぎわうまち～	4-3多様なつながりで築く豊かな地域づくり	県の取り組みである、さかすたいいるゼミのような内容を、広く市民が学べたら、この基本目標④「彩る」につながるのではないか。 <さかすたいいるゼミ> 様々な当事者(お年寄り、障がいのある方、子育て・妊娠中の方など)がお店を利用する際に感じる様々な困りごとや嬉しいサポートなどを、店舗・施設のスタッフが実践的に学ぶゼミ	本戦略においても、具体的施策「多様なつながりで築く豊かな地域づくり」を掲げており、ご意見頂きました「様々な立場の方へのサポートを、広く市民が学べる機会の創出」につきましては、基本目標につながるものと考えております。今後府内関係部署や県と連携しながら、取り組みについて検討したいと考えております。	D

※第3期武雄市まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)に対する意見

A.計画案に対する意見(案を修正したもの)	4
B.計画案に対する意見(案を修正しないもの)	5
C.計画案と同趣旨の意見	17
D.今後の計画の推進において参考とするもの	9
E.その他(感想や質問等)	2

No.	基本目標	具体的施策	意見	意見に対する回答	取扱区分
32	④彩る ～交流しにぎわうまち～	4-3多様なつながりで築く豊かな地域づくり	「多言語化やユニバーサルデザインを推進する」とあるので、外国人や障がいを持つ人にも入ってもらい、まちづくりを考える機会を持った方がいいと思う。	ご意見頂きましたとおり、まちづくりにおいては様々な方の視点が重要と考えます。外国人や障がいを持った方を含めた様々な立場の方の意見がまちづくりに反映できるよう、府内関係部署にもご意見を共有し、意見交換等の場づくりを検討していきます。	D
33	⑤つなぐ ～未来へ続くまち～	5-1地域の特色を活かしたまちづくり	「地域の特色を活かしたまちづくり」にある地域資源として、歴史資源の開拓開発を加えるのはどうか。歴史資源とは物語であるため、物語の掘り起こしや物語をつないだルートの開発とPR、グッズ販売など新たな観光資源ともなる可能性がある。	ご意見頂きましたとおり、歴史資源は、地域の活性化につながる大切な地域資源であると考えております。令和6年度から、歴史・文化の価値を掘り起こした、歴史文化ツーリズムに取り組んでいます。令和6年度はモニターツアーを2回実施しており、体験や食などのモニターツアーへの意見をもとに、今後新たな観光資源の創出、商品化を目指していきます。	D
34	⑤つなぐ ～未来へ続くまち～	5-1地域の特色を活かしたまちづくり	朝日町：武雄町にも関わるが、「柏岳」を開発しこどもたちが冒険できる山にできないか。	ご意見頂きましたとおり、柏岳については自然資源としての活用を行うべきと考えております。今後は、令和元年以降に発生した、かけ崩れの対策を行った後、市有林の間伐および東屋の修繕を行うことで、こどもたちを含めた市民の憩いの場所として整備します。 また、セリタ建設様との「企業の森林づくりに関する協定」にもとづき、柏岳を地域の環境教育の場として活用し、こどもたちが、山の大切さ、関わり方などを直接触れて学べる機会を提供します。	D
35	⑤つなぐ ～未来へ続くまち～	5-2持続可能な公共交通の整備	持続可能な公共交通の整備は重要な課題。夜間のライドシェアの実証実験が始まったが、日中の身近な足についても考える必要がある。気軽に利用できる交通手段の指標として循環バス・コミュニティバス乗降者数を設定することは理解できるが、そこで補えない人達をどうするかという視点も必要かと思う。	ご意見頂きましたとおり、循環バス・コミュニティバスの乗降者数のみにとらわれず、あらゆる方たちが利用できる公共交通の整備が必要と考えております。 様々な市民のご意見を聞きながら、取り残される人がいないうよう、福祉分野とも連携した交通政策となるよう取り組みます。	D
36	①守る ～安心して暮らせるまち～	1-1災害に強いまちづくり	KPIに地域防災リーダー数が目標値となっているが、地域防災リーダーとはどの様な人たちをさすのか。	佐賀県地域防災リーダー養成講座を受講し、地域防災リーダーとして登録された人たちのことで、主に区の役員や消防団の方等の受講が多い状況です。災害時の活動や、平時の啓発、訓練など地域の防災活動を主導する方をさします。	E
37	③育む ～成長を支えるまち～	3-3夢を持って成長できる学びの場づくり	高校生のまちづくり参画事業は良い学びや経験の場になっていると思う。	今後も、高校生の学びや経験のにつながるよう、高校生のまちづくり参画事業を推進してまいります。	E